

企画名：女性農業従事者の尿中ネオニコチノイド系農薬検出実態調査

団体名：一般社団法人農民連食品分析センター

1. 報告要旨

女性農業従事者 67 名から、68 検体の尿を提供いただき、ネオニコチノイド系農薬 7 成分（以下、ネオニコ系農薬）、類似農薬 7 成分、代謝物 1 成分について検査を行いました。試験の結果、すべての方の尿から、一つ以上の対象成分が検出されました。最も検出率が高かったのは、ジノテフランで、90%の女性農業従事者から検出が認められました。次いで、検出率が高かったのはクロチアニジンで、63%の方から検出されました。この 2 成分は、ネオニコ系農薬の出荷量で見ると 1 位と 2 位にあたり、検出実態が使用実態と繋がっていることがうかがえるものでした。

ネオニコ類似農薬であるスルホキサフロルが、34%で検出されました。スルホキサフロルの出荷量は約 23 トン（2021 年）と、トン数で見れば、前述の 2 成分に比べ、多くはありませんが、この結果は、生産現場での普及をうかがわせるものでした。非ネオニコ系農薬が求められる動きの中で、この成分に切り替えるといった変化が起きている可能性も考えられました。

農業従事者は、散布作業を行ったり、そういった環境に近い場所に暮らしている背景から、消費者よりも検出に高い傾向があるのではないかと仮説を立てていましたが、全体的な傾向では、消費者を対象に行ってきた別の調査と比較し、大きな違いがある、といった判断は難しいと考えられるものとなりました。検査にあたって、記入を求めたアンケートでは、全ての方が、農薬散布時は暴露を防ぐ服装で作業をしていると回答しており、その防護効果でもありと考えられます。また、農業従事者であっても、食品の購入は、周辺のスーパーなどから購入していることが多く、食経路での暴露という点では、消費者とあまり差が無くなっていることも考えられました。

ただし、果樹や園芸を営む農業従事者では、検出値が共通して高い傾向が見られました。これらの栽培では、農薬使用とその暴露機会が多いことが知られています。検出には、そういった傾向が現れている可能性があると考えられました。

調査終了後には、「自分の体から農薬が出ることを体験したことで、農作業と農薬の関係や体のことを考えるようになった」「家族ではどうなのかを調べたい」「農業従事者がもっと検査に取り組み、実態を意識するための活動が必要」といった声がありました。この調査は、農薬使用と管理に意識を向けてもらうことに思いがけず繋がった部分があったと感じています。今後、可能であれば、農業従事者の農産物生産時の暴露状況により絞り込んだ解析ができるよう、耕作種や散布農薬の種類 散布方法など、モデルを設定した 条件で調査を実施したいと考えています。

2. 成果物

1. 農民連食品分析センターの web サイトでのデータ公開『[女性の農業従事者の尿中ネオニコチノイド系農薬調査 2022](#)』（2023.2.22）
2. 農民連女性部学習会資料
3. 農民連女性部学習会用ビデオ
4. 「[生産者と消費者に安全、安心を](#)」季刊『働くもののいのちと健康』no.94（2023.3）
5. 東京保健会学術運動交流会抄録にデータ掲載
6. 「[農民連食品分析センターが調査 女性農業者の尿からネオニコ系農薬を検出](#)」『農民』（2023.4.24）
7. 『分析センター検査室ニュース』春号に掲載